

令和8年度 第1回 門司区多職種連携研修会 報告書

1. 実施概要

① 実施日時 令和8年 9月 17日（木） 19:00～20:30

② 実施場所 新小文字病院 すみれ寮 1階集会室

③ テーマ 「本人の思いを地域でつなぐACP」
～急性期病院の取り組みから学び、多職種でその人らしい人生を支えるために～

④ 内容 講演
グループワーク

⑤ 講師 新小文字病院 看護部 外来 看護師長 山田 千春先生

⑥ 参加者

種別	人数
医師	5 名
歯科医師	1 名
薬剤師	2 名
看護師・保健師	16 名
介護支援専門員	15 名
社会福祉士	3 名
リハビリ職	3 名
介護職	2 名
その他（事務職等）	3 名
合 計	50 名

種別	事業所数	参加者
病院・診療所	13	14
歯科医院	1	1
薬局	2	2
訪問看護事業所	5	6
居宅介護支援事業所	9	13
介護事業所	2	2
介護施設	6	8
行政	1	2
連携支援センター	1	2
合 計	41	50

※実行委員含む

他講師 1 名

⑦ 内容

時 間	内 容
18:57～19:00	事務連絡（司会進行 川端歯科医院 院長 川端 賢一先生）
19:00～19:03	開会挨拶 （門司在宅医療・介護連携支援センター担当理事 白川 伸一郎先生）
19:03～19:09	趣旨説明 門司在宅医療介護連携支援センター 小林 孝美
19:09～19:10	講師・演題紹介（座長：辻医院 院長 辻 雄一郎先生）
19:10～19:40	ご講演（新小文字病院 看護部 外来 看護師長 山田 千春先生）
19:40～19:45	事前質問・質疑応答
19:45～19:50	ACP事例紹介・グループワークの説明 多職種連携研修実行委員 佐藤 久美恵
19:45～20:15	グループワーク
20:15～20:27	発表・まとめ
20:27～20:30	閉会の挨拶（門司歯科医師会会長 新田 洋司先生）

2. アンケート

1. 職種について 回答数 38 (回答率92.6%)

職種	
医師	2
歯科医師	1
薬剤師	1
保健師・看護師	13
介護支援専門員	14

職種	
リハビリ職	2
社会福祉士	2
介護職	2
その他（事務職等）	1
合 計	38



2. 研修会への参加動機について（主にあてはまるものに○をご記入下さい。（複数回答可）

自己研鑽のため	30
業務の一環として	5

テーマに興味があったため	22
その他	0

3. 本日の研修会はいかがでしたか。該当するものをひとつ選んで下さい。

大変参考になった	31
どちらとも言えない	1
全く参考にならなかった	0

参考になった	6
あまり参考にならなかった	0
合 計	38

上記を選んだ理由を教えてください。

いろいろな立場・職種の意見を聞くことができた。グループワークで、実例を聞くことができた。

4. 理解が深まった内容について教えてください。（複数回答可）

急性期病院でACPを始める意義	11
ACPを組織で進める方法	7
多職種連携の必要性	27

ACPを始めるタイミング	18
ACPを地域でつなぐ重要性	20
その他	1

5. 今回の研修を受けて、今後取り組んでみたいと思うことはありますか。（複数回答可）

本人の価値観を意識して関わる	28
ACPについて本人・家族と話す機会を増やしたい	21
本人の思いや希望を、多職種で共有して支援につなげたい	23
職場・事業所内でACPについて話し合いたい	13

6. 今日の研修で得た学びを、今後の業務や支援に活かそうですか。

とてもそう思う	19
あまりそう思わない	0

そう思う	18
そう思わない	0

7. 今後、ACPについてどのようなことを学びたいですか。（複数回答可）

本人への話の切り出し方・声のかけ方	21
本人と家族の思いが異なる場合の関わり方	21

本人の思いや希望の聴き取り方	16
本人の思いを多職種で共有する方法	14

8. 本研修会（講演・グループワーク）についてのご意見・ご感想や、今後希望される研修会等ございましたらご記入ください。

グループワークで多職種で顔の見える関係が密になって良いと思いました。
多職種の連携の大切さをあらためて実感した。
ACPを難しく捉えていたと思う。これからは日々の会話の中に取り入れたい。